



福山大学  
FUKUYAMA UNIVERSITY

# 学 報

2007.12.10 Vol. **114**

## 三蔵五訓

真理を探究し、道理を实践する。  
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。  
生命を尊重し、自然を畏敬する。  
個性を伸展し、紐帯性を培う。  
未来を志向し、可能性に挑む。



特集

## 牟田泰三 学長就任



特集 牟田泰三 学長就任……………	1~2
2007年 第33回三蔵祭各学部のカシ……………	3
地域連携活動……………	5
拡がる教育連携……………	7
キャリア教育……………	9
研究の今……………	10
学内トピックス……………	11
施設のご案内・インフォメーション……………	13
学内人事・学友会短信……………	14
国際交流・平成20年度入試始まる……………	15



# 福山大学運営に携わって1ヶ月

福山大学 学長 牟田 泰三

10月19日に福山大学学長に就任して、はや1ヶ月以上が経過しました。

初出勤の朝、福山大学キャンパスで最初に出会った学生が、元気良く

「お早うございます」

と声をかけてくれたおかげで、福山大学のイメージがぱっと明るなものになりました。その日は、一日中爽快な気分ですごすことができました。学生委員長の澁谷博孝先生から聞いたのですが、福山大学ではずいぶん前からこのような指導をしているのだということで、初代宮地茂総長による建学の理念「全人教育」が、脈々と受け継がれているなあと感じられました。これは何時までも受け継いでいくべき尊い理念であると思います。私は、本学のホームページの冒頭を飾っている建学の理念

「大学の価値は入学試験の難易度で示すのではなく、どのような教育を行うかによって評価するべきである。学問にのみ偏重するのではなく、真理を愛し、道理を実践する知行合一の教育によって、人間性を尊重した調和的な全人格陶冶を目指す全人教育が必要である。」に強く共感を感じます。

大学淘汰の時代に入りつつある今、どここの大学でも、受験生数の減少に見舞われております。この様な時こそ、各大学はそれぞれの特色を明確にして、生き残りを図っていく必要があります。福山大学の特色は、まさにこの全人教育にあると思います。

さて、大学を円滑に運営するためには、まず大学の教育研究の現

場を知らねばなりません。そこで、就任後、直ぐに取りかかったのは各学部訪問です。11月末までに、全ての学部の実情を見せていただきました。各学部では、国際的レベルの研究が行われているのを見せていただき、大変心強く感じました。個人的には、生命工学部の魚類の研究やダイオキシンと花の色の関連性の研究、工学部の構造物破壊の大型の研究など、大変興味深いものだと思います。

また、どの学部でも、学生の教育に大変熱心に取り組んでおられ、学生諸君も生き生きと学習に励んでいました。ただ、以前に比べて学生数が少なく、ちょっと寂しいかなと感じました。福山大学の教育理念は、「教えるとは、共に希望を語ること。学ぶとは共に誠実を胸に刻むこと」という言葉で言い表されています。教育現場を見せていただいて、この教育理念がまさに実践されていることを感じました。

この1ヶ月余の私のスケジュールを振り返ってみますと、先ず、各方面に新任の挨拶に出かけております。広島県知事、福山市長、福山商工会議所会頭、東広島市長、東広島商工会議所会頭、福山平成大学長、福山市立女子短期大学長、尾道大学長、福山大学の理事の皆さん、高等学校長、文部科学省の関係部署、等を歴訪しました。まだまだ、今後、各高等学校長や企業社長などにご挨拶をしたいと思います。

その上、私は、文部科学省の設置審委員、「特色ある大学教育支

援プログラム」の審査委員、学生支援機構政策企画委員会委員などを行っている関係で、毎月相当程度出張をしており、大学を留守にしております。このため、用事があったりもなかなか私を捕まえることができず、困っている方もおられるのではないかと心配しています。今年度内にこれらの仕事も整理して、皆さんに迷惑をかけないようにしたいと思っています。

福山大学は、近年急速に国際化を推進しており、中国の中山大学と協定を結んだり、孔子学院を設置する契約を結んだりしています。孔子学院の世界大会が北京で開催されますので、12月10日(月)から13日(木)まで、私は北京へ出張します。今後も、国際化には積極的に取り組み、中国だけでなく、世界の各国と連携していきたいと思っています。

福山大学については、もっともっとよく見て学ばねばならないことが多いと思います。この1ヶ月余の間に、私が知り得た限られた情報をもとに感想を述べるとすると、福山大学では、各学部・学科が独立してそれぞれの教育と研究をしっかりと行っているのに対して、大学全体としての活動や学部間・学科間の連携が乏しいのではないかと思います。それぞれの学部や学科で行われている優れた教育と研究が、大学全体としての戦略の中で位置づけられ、有機的に結びつけば、より一層の成果が得られるのではないかと感じます。





# 福山大学に輝かしい未来を

福山大学 学長 牟田 泰三

就任以来、福山大学の現状を出来るだけつぶさに知りたいと考えて、学部訪問や事務機構の勉強に可能な限りの時間を費やしました。ある程度の現状把握は出来つつあるのではないかと思います。

近年、若年人口の急激な減少の結果、大学受験生の数が大幅に減っており、全国に700ほどある大学全体で見れば、ほぼ全入の状態になっています。ということは、競争率数倍の大学がある一方で、定員割れをしている大学が沢山あるということです。一昔前の大学の売り手市場の時代から、今や買い手市場の時代になったのです。

皆さんご存知の通り、福山大学でも、学生定員割れが大きな問題となっています。この傾向は、何としても、どこかで押し止め、逆転に転じさせなければなりません。そこでまず、現実をしっかりと直視しましょう。受験関係データを十分に集め、それを子細に分析し、戦略を立てねばなりません。それに基づいて、教員数の適正規模や収支状況についても検討する必要があります。しかし、それらの問題に立ち入る前に、もっと大学本来のあり方に立ち返って、将来に向けた構想を立てることが必要だと思います。

そこで、大所高所に立って、福山大学の輝かしい未来を切り開くための考え方をまとめたいと思います。先ず建学の精神と理念です。それは既に宮地茂初代総長によって述べられています。

**建学の精神：** 全人教育

**理 念：** 三蔵五訓

これらの理念を高く掲げながら、

福山大学が目指すべき目標を設定する必要があります。

**目 標：** 備後に根ざした

日本有数の総合大学（牟田私案）

この目標を達成するに当たっての、福山大学としてのコンセプトは、

**コンセプト：** 地域に役立つ国際性をもった人材の育成，研究成果の地域への還元

と定めてみましょう。

その戦略として、私は、「福山大学の優れた教育システムを確立し、研究機能を強化し、それらが外部から見えるようにする」ことしたいと思います。この戦略を実施していく手順が行動計画です。これについては、新春の全学教授会で詳しく述べたいと思っています。ここでは、箇条書きに止めておきます。

## 行動計画

### （1）教育システムの全学的確立

入学者の多様化や入学者の水準の変化に対応するためには、新しい教育システムが必要です。新しい教育システムでは、全学的教育目標・教育方針を策定し、それに基づいた学部ごとの教育目標（卒業生に求められる実力）を設定（出来る限り数値目標）します。そして、その目標に向けた教育プログラムを開発すると共に目標に向けた教育方法の開発を進めます。この計画を実現させるために、「教育改革推進プロジェクトチーム」を設置したいと思います。この計画は、できれば、福山平成大学と連携すべきであると思います。

### （2）研究の活性化

必要に応じて研究グループの再編成を行うなど、研究活性化に向

けた方策を検討します。研究は、基本的には、科学研究費補助金等の競争的資金の獲得によって行うことを原則とすべきだと思います。現存する競争的資金一覧を全学教授会などで配布し、競争的資金への挑戦を奨励したいと思います。このために、「競争的資金獲得支援プロジェクトチーム」を編成し、大学として戦略的に競争的資金獲得を図りたいと思います。また、企業等との共同研究を活発化するために、webなどを通した研究成果の公開を進めるべきです。

### （3）産業界・地域社会との連携

教育目標への産業界の要請の組み込み、産業界との研究協力、福山駅前キャンパスの利活用、キャンパスの地域社会への開放など、種々の試みを進めたいと思います。

### （4）収支バランスの多様化

従来、私学では、収入の大部分を学生からの授業料等収入に依存してきました。これからは、収入の多角化を図るべきでしょう。授業料収入以外にも、競争的資金収入（間接経費は無視できない要素です）、産学共同研究経費（オーバーヘッド）、事業収入、寄付金収入などなど、色んな工夫をする余地があります。

いずれにせよ、福山大学の輝かしい未来は、本学で学ぶ学生諸君が本学の教育に満足しているかどうかにかかっていると言えます。学生諸君に満足感を与え、自信を持って社会に送り出せるような教育システムを編み出したいものです。



## 3



## 工学部クイズスタンプラリー 『モノづくりラリー2007』

工学部では、初めての試みとして、機械システム工学科、電子・電気工学科、情報工学科の3学科の共催で『モノづくりラリー』を行いました。3学科を訪問し、簡単なクイズに答えて正解すると、光る携帯ストラップの部品がもらえます。機械システム工学科ではストラップの本体、電子・電気工学科ではLEDおよび電池、情報工学科ではストラップに貼るシールと紐がもらえます。これらの部品を組み合わせるとオリジナルのストラップが完成します。特に、電子・電気工学科では、来客者が半田ごてを使って、簡単な回路を作成しました。3学科共催ということで、

来客者の増加にもつながり、新しい試みとしては大成功を納めました。来年も、工学部でこのような催しを企画したいと思います。この他の各学科の主な企画として、電子・電気工学科では、『現代のテレビ技術』のテーマで地上デジタル放送やワンセグ放送の展示を行い、建築・建設学科（建設環境工学科）では、『土・水・橋構造の魅力』のテーマで砂時計の作成などを行いました。また、建築・建設学科（建築学科）では、『建築はおもしろい』のテーマで折り紙を使った建築、立体の作成を行い、機械システム工学科では、『「モノづくり」と「自動車」の魅力』の



テーマで、ダッチ再生プロジェクトの報告やペーパークラフトを行いました。そして、情報工学科では、学生や教員がゲームを作成し、『第1回情報工学科杯ゲームプログラムコンテスト』を開催しました。最後に大学祭に参加した学生およびサポートの教職員の皆さん、お疲れ様でした。

工学部 准教授 尾関 孝史

## 生命工学部 『大学祭は“交流の場”』

生命工学部では、例年の如く3学科が独自のスタイルで企画・展示を行った。生物工学科は『お金で買えない価値がある～生命活動はPriceless～』、応用生物科学科は『徹底解析！食を科学する』、海洋生物工学科は『海の生きものを科学する!!』をテーマに掲げ、大いに三蔵祭を盛り上げた。

生物工学科では「おもしろ科学実験」と題した体験コーナーを設け、工夫を凝らした企画で来客をもてなした。また、ハーブの苗や学生らが作製したアロマキャンドルが来客にプレゼントされ、好評を得た。応用生物科学科では、学科発足当時の伝統であり“三蔵

祭の名物”とも謳われるアイスクリームなどの試供で、来客のお腹を“しあわせ気分”で満たした。“食”という身近なテーマも、興味を引く内容であった。海洋生物工学科では、学芸員資格取得志望学生による企画展示『おりがみ水族館』と『海をこえてきた魚たち』に力を注ぎ、また『海の生き物タッチングプール』や多くの水棲生物を展示した『ミニ水族館』で、幅広い来客層に楽しんで頂けた。

何れの企画・展示においても、それぞれの学科に所属する学生が日頃の勉学の成果を生かし、また考案から展示作製に至るまでの努力を惜まず頑張った結果が随所に見られた。さらに、学年の壁を越えた多くの学生が参加することで、学年間の交流が密になる場



となった。三蔵祭はいわば、共同作業を通した学生達の“交流の場”を創る機会をも与えてくれる。先輩は後輩を指導し、後輩は先輩の背中を見て将来の自分たちのことを想う…。人と人との交流が、豊かな大学生活を形成する場であることを認識できたであろう。

来年度以降も、それぞれの学科の学生達がみんなで試行錯誤を繰り返し、想像を超えた素晴らしい“交流作品”が創造されることを心から願っている。

生命工学部 講師 阪本 憲司

## 薬学部 『恒例12件の催し好評!』

薬学部は、薬理、学生薬局、衛生、化学班の4班から各1件、そして薬学部運営班から8件、計12件の催しが行われた。薬理班は、“冷え性”をテーマに、改善方法と予防、学生薬局は恒例の“入浴剤、ハンドクリームの調製体験とお薬情報”、衛生班は“嗜好品のコーヒー、



“冷え性”がテーマの薬理班

紅茶”がテーマであった。いずれの催しも身近で、しかも寒さに向かう季節柄、訪れる方々に好評のようであった。入浴剤で一日の疲れを癒し、ハンドクリームで手荒れの予防、そして休憩時のコーヒー・紅茶のテーマと続いており、これらのテーマを採りあげる薬学部を身近に感じて頂けたのではないかなと思う。

化学班は、とかく敬遠されがちな化学のイメージを打破しようと遊び心で化学を紹介しているが、他の催しに比べて一般受けし難いのか、担当の学生諸君もアイスクリームを用意するなど、“少しでも化学に興味をもってもらいたい”という気遣いが窺えた。化学は薬学教育の大切な基礎科目で、薬理学や薬剤学のような華々しさはないが、

化学班の催しは薬学における化学の重要性を理解してもらうために役立ったのではないだろうか。

薬学部運営班は、毎年恒例の催しである“ウグイスパウダーの体験、紫雲膏の調製、体力改善、ゲーム”等に加えて“はしかや感染症、健康ダイエット”について、最近の気になる話題を採りあげて紹介した。運営班は毎年、先輩から受け継ぐ恒例の催しに加えて各学年の特色を生かそうと学生諸君が趣向を凝らしたテーマも紹介している。恒例の紫雲膏は、訪れた方自ら調製を体験し、持ち帰ることができるのが好評で、体力改善のコーナーは体力測定を行うので定期的な体力検査に役立てる方もおられるようである。

薬学部 教授 藤岡 晴人・西尾 廣昭



## びんご産業市場 2007

### 「びんご創造力・福山大学」展示会

広島県東部びんご地域の産業、特産物などを一堂に集めて展示し、地域の活性化状況を知って頂くための「びんご産業市場」が今年も、11月16,17,18日(金～日)の3日間に県立ふくやま産業交流館(通称ビック・ローズ)で行われた。この展示会の主催者として、福山商工会議所、(財)備後地域地場産業振興センターに加えて、学校法人福山大学が一員となってから今年度で3年目を迎えた。開催初日の16日(金)10時には、オープンセレモニーがあり、宮地尚総長をはじめ主催者代表者らによるテープカットがあり、続いて、福山大学学生による三蔵太鼓の演奏があって、会場の華やいだ雰囲気を演出して注目を浴びた。

大学関係の出展スペースは企業等に

よる出展部門の全スペースの30%を閉めた。そのうち、福山大学が25ブース、福山平成大学が5ブースを占めた。福山大学としての本年度は、来年度からの新設学科や福山大学発のベンチャービジネスなど幅広い出展を試みたので、1つのブースに2つの出展をするなど、少し手狭になった。しかし、年々出展の内容、表現に改良が加えられて、評判は高かった。全体では、「びんご創造力」というテーマの下で、各学部学科は、それぞれ「各テーマ」を掲げて展示を行った。

見学者は子供連れが多く、子供が興味を引く試みが多くなされて、全体の出展の中で福山大学の出展コーナーが一番楽しめたと言う評判を得た。例えば、竹とんぼを作ることや、組み立て

おもちゃを作るなど、体験型のものを提供すると、その間に引率者の親との会話ができて、福山大学をより良く知って頂くことができたようだ。また、説明役に学生の参加協力を得て行ったブースでは人だかりが多かった。会場では、同時に、フードフェスタが開催されていて、例年、人だかりの多くはそちらにいてしまいがちであったが、今年度は大学の出展コーナーに人の流れが多く見学者が倍増の感があった。入場者総数は天候の関係もあってか、昨年よりは約2千人多く、開催期間3日間で、3万余人であった。

社会連携センター  
産官学連携推進部門長  
工学部 教授 河野俊彦



福山大学各出展コーナ全体の入口付近



学科説明とロボットの説明を受ける母子





## “心理学を生かした、親子のための子育てワークショップ” 開催

福山中央ライオンズクラブの創立40周年記念事業の一環として、福山大学心理学科教員が講師となり、子育てに悩む親子やよりよい子育てを目指す親子を対象にワークショップを開催中です。臨床心理学、発達心理学、健康心理学、認知心理学などの心理学領域の知見を生かした子育て支援を目的に、子育てについての多様で柔軟な考え方や、ストレスの上手な解消法、親子間のよりよいコミュニケーションの習慣等を身につけてもらい、不安や悩みなどの軽減をめざします。

実施期間は平成19年7月～平成20年5月で、第1クールを平成19年12月に終え、平成20年2月より第2クールを

開催します。第2クールの日程は、①心と身体を手軽にほぐす～自律訓練法～(2/9)、②親子で育む聴くスキル(2/23)、③ピア・サポートで考えよう、親子の気持ちの伝え方・受けとめ方(3/8)、④もっとコミュニケーションが上手に！(3/15)、⑤親と子どものふりかえり表～自分と相手のクセを知ろう～(4/26)、⑥上手に叱る～幼児編～(5/17)、⑦子どもって素晴らしい！クイズで学ぶ子どもの発達～(5/24)。会場は福山市緑町のウェルサンピア福山。時間は午後2時～3時半に行います。【受講料無料】です。

人間文化学部 准教授 三宅 幹子

## 東村小学校の陸上指導を通して



フォームの指導

指導経験がない私たちは、この依頼を受けた時、正直、子供たちにどのように接し、教えたらいのか不安でした。しかし、その不安を取り除くように、初日から子供たちは私たちに大きな声で挨拶をし、声をかけてきてくれました。練習にも驚くほど純粋にまじめに取り組んでくれたのです。その姿を見て、私たちが培った陸上競技の技術をできる限り伝えようと思いました。そんな中、ふと子供たちが楽しそうに笑顔で走っているのが目に留まりまし

た。その時、技術云々の前に陸上競技を純粋に楽しむという私たちの原点を思い出しました。この陸上指導を通して最終的に教えられたのは私たち部員のほうだったように思います。今回このような機会を与えていただき、陸上競技に限らず、子供たちが様々なスポーツに触れ合う機会をもち、スポーツの素晴らしさ、楽しさを知ってほしいと思いました。

経済学部 4年 小柳 弘樹

## 「スポーツで地域貢献」

### ～スポーツを通して、子供たちの新しい交流を～

このたび、経済学部スポーツマネジメント科学センターは、'07福山大学三蔵祭の開催を機に、地元のスポーツ好きの少年たちを大学に招き、野球教室やサッカー教室、そして交流試合を行なうこととなりました。このような機会をつくることで、福山大学硬式野球部やサッカー部の学生たちも参加して、一日スポーツを楽しむことは、大変意義のあることだと考えたからです。

2007年10月28日(日) 福山大学野球場にて、第1回福山大学硬式野球部 キッズベースボール フェスティバルが開催され、少年野球チームの福山スワローズ・備前ディアークラブ・ヤングひろしま・岡山MAKIBIクラブの4チーム約100名が参加しました。優勝チームの福山スワローズには、優勝トロフィーを差し上げました。

また、同日、同球場隣のサッカーグラウンドにて、第4回福山大学サッカー部 キッズサッカー フェスティバルが開催され、ローザスセレソソフットボールクラブ・サンフレッチェ常石サッ



カークラブ・その他福山市内のサッカーチーム約100名が参加しました。

野球・サッカーそれぞれ概ね同数の保護者の方々も参集されましたが、誰

一人怪我をすることもなく、無事、大盛況のうちに散会となりました。

経済学部 准教授 上迫 明



# 拡 がる 教 育 連 携

## 高大連携について

福山大学は1975年に地域社会の熱い要望と期待を担って創設されました。以来32年の幾多の変遷に耐え、逞しく発展充実して参りました。今日、少子高齢化社会を迎え、地元企業への就職を希望する学生が増加しております。

こうした実態にしっかりと応えていくためには、福山大学が以前にも増して一層魅力のある、特色のある大学へと変身を遂げなければなりません。福山大学が有する知的、物的、人的財産を地域の高等学校に提供し、共有することによって高大の繋がりを深め、地域貢献に尽くすことが重要であります。

高等学校と大学が「協定書」を締結することによって、両校の教育等の向上に資することを目的としています。

(1) 高等学校と大学が連携を図り、高校生に対して多様な学習機会（例えば、授業や学部説明、施設設備の見学など）を提供する。このことにより、高校生が大学教育に触れ、学習への動機

付けや幅広い学力向上を図るとともに、自らの適性を見出し、将来設計やキャリア教育の推進を図る。

(2) 両校は教育に係る相互交流を図る。

また、教員及び学生の交流を図る。

その他、両校が適当と認めた交流を図る。

現在、「協定書」締結ができています。現在、県立・公立・私立高校を合わせて33校に達しています。

協定校および多くの高等学校とは、大学のもつ実験実習施設等の開放を行っております。また、高等学校へ出張講義は年々増加の傾向にあり、定着してきております。

出張講義の「テーマ」は「今の中国をどのように理解したらよいか」、「心理学とは何か」、「自動車の環境対応」、「病氣と闘うくすりの誕生と人間性豊かな実践的薬剤師」等々盛りだくさんのテーマを準備しております。

とりわけ専門高校には、「資格と職業」や「職業会計人を目指す人のために」とい

ったテーマで高等学校1～2年生を対象に2時間連続授業に取り組みました。高校生は「ぜひ福山大学に進学して、将来、税理士や会計士になりたい」と感想を述べていました。

福山大学は昨年度よりセンター試験入試を導入しました。それに伴ってセンター試験会場にも協力しました。また、昨年は近隣の高等学校に模擬試験のための会場を提供しました。高等学校教員からは本試験場で模擬試験を実施することができたこと、また高校生からは本番で慌てることなく落ち着いて試験に臨むことができたことをそれぞれ感謝されました。

学生が抱える諸問題に協定校をはじめ各高等学校と緊密な連携を図り、積極的に取り組む姿勢が芽生えてきております。色々な問題に対して、担任が一人で悩むことなく、高等学校と積極的に連携を図る姿勢が確立しつつあります。

経済学部 教授 小林 陽治

## 本学教員による 高校への訪問授業

高等学校では新しいカリキュラムの一環として、さまざまな分野の専門家による授業を企画し、経験豊富な講師を求めています。このような要望に応えるため、本学の教授陣が各地の高等学校を訪れ、それぞれの専門に関する話題をわかりやすく講義する訪問授業を、昨年度に引き続いて今年度も実施しています。

今年度はこれまでに、各地の高等学校8校を15名の教員が訪れ、それぞれの専門分野の話題を紹介する講義を行いました。

### 平成19年度 訪問授業実施状況

5月24日(木) 広島県立福山誠之館高等学校

薬学部 教授 福長 将仁

6月23日(土) 広島市立沼田高等学校

生命工学部 教授 山本 寛

7月12日(木) 広島県立上下高等学校

生命工学部 准教授 菊田 安至

9月5日(水) 広島県立福山工業高等学校

工学部 教授 三谷 康夫

9月25日(火) 山口県立下関南高等学校

薬学部 教授 吉富 博則

10月31日(水) 福山市立福山高等学校

人間文化学部 講師 中橋 雄

工学部 准教授 田中 聡

工学部 教授 富田 武満

薬学部 教授 小野 行雄

薬学部 教授 富田 久夫

薬学部 講師 秦 季之

10月31日(水) 広島県立福山明王台高等学校

経済学部 教授 小林 陽治

工学部 准教授 田中 聡

工学部 助教 佐川 宏幸

11月28日(水) 広島県立尾道商業高等学校

人間文化学部 教授 丹藤 浩二

入試広報室

## 建築・建設学科設立記念行事

今年度より新設された「建築・建設学科」の設立記念行事が、去る10月27日に開催されました。当日は三蔵祭期間中でもあり、多数来場した卒業生も、昔から変わらぬ本学の活気を懐かしんでいました。

記念行事は、同窓会組織である福山大学建築会、福山大学土木会の協力を得ながら、講演会と懇親会の2部構成で執り行われました。先ず本学瀧光夫教授の設立記念講演「建築と建設のこれから―秩序と調和ある環境づくりに向けて―」では、建築と土木が一体となって環境を創っていくことの重要性、本来的な意義が提唱されました。引

き続いて卒業生を代表し、旧建築学科を1989年に卒業し本学非常勤講師でもある建築家・長岡正芳氏、旧土木工学科を1987年に卒業した福山市建設局下水道部次長・坂根和裕氏より、大学時代の思い出と近況の御報告に併せ、新学科への期待の言葉がありました。

その後の懇親会は、同窓会さながらの和やかな雰囲気の中で、参加者一同が親交を深めるよい機会となりました。

本学工学部長・小林一夫教授の挨拶に始まり、御来賓の神辺旭高等学校校長・渡邊政則様、並びに安藤建設(株)広島支店営業部長・坪岡恒則様の御祝辞も頂きました。新学科の将来のさらなる発展へ向けて、全教員、卒業生、高等学校や産業界等の関係各者が一体となって、地域の発展に寄与する人材の育成に向けて、今後ますます努力し協働していくことが確認されました。

工学部 講師 水上 優





## 中国との連携

福山大学は、これまで「世界の可能性はアジア、なかでも中国にあり」との認識を持ち、中国を核とした国際交流に積極的に取り組んできた。その事業内容は主に以下のようにまとめられる。

### 1. 学校間の学術・教育交流

2004年、中国北京市の重点大学である對外経済貿易大学と教育交流協定を交わした。その後、毎年、同大学から来る客員教授が講義・講演をし、中国経済の最新情報を福山大学の学生および地域住民に紹介している。

その後、2006年から2007年にかけて、首都師範大学、貴州師範大学、上海師範大学、天津科技大学および中山大学など、中国各地の有名大学と次々に学術・教育交流協定を結ぶに至った。そして、地元の私立高校銀河学院とともに、北京市にある重点中学である海淀実験中学とそれぞれ交流協定を交わし、日中両国における青少年間の親善交流にも取り組んでいる。

### 2. 学生間の国際交流

福山大学は、1996年から中国人留学生を受け入れはじめ、現在ではすでに100人以上が在籍している。このような状況に応じ、新たに留学生センターが設置され、日本語教育はもとより、生活指導にも万全を期している。また、中国協定大学間の交換留学生や学部編入生の奨励、夏休みを利用した



集中中国語研修の実施、「日本語コンテスト」の開催、そして本学を「中国語検定試験」の委託会場とするなど、日中大学生間の相互理解のための基礎固めが着々と進められている。

### 3. 中国での研究拠点の設置

日中間の教育研究交流を推進するための具体的な活動拠点として、首都師範大学内に「福山大学教育研究センター」、貴州師範大学内に「日本学研究センター」をそれぞれ設置し、両国における文化交流の発信源になろうとしている。

### 4. 福山大学孔子学院の設立

中国語と中国文化を普及させ、世界と中国の相互理解と友好を深めるために、中国国家漢語国際推广領導小組辦公室が全世界

に孔子学院の建設を提唱していることに応じて、2007年11月16日に、孔子学院本部との間に「福山大学孔子学院」の共同設立に関する協定書を締結し、2008年4月から正式に運営開始することを予定している。

このように、福山大学は日中両国の架け橋になるべく、広い範囲で尽力している。今後は「福山大学孔子学院」を中核に、福山地区の行政、企業ならびに高等学校などと連携をとり、学内外で本格的な中国語教育を展開し、中国語研修プログラムを実施すると同時に中国関連の各種情報を提供する。地域に根ざし、地域住民とともに国際交流を展開していく所存である。

経済学部 講師 許 霽

## 夏季集中 中国語・英語研修

### 夏季集中 中国語研修

学生諸君、今年の夏休み、何か思い出に残ることがありましたか。

本学経済学部の1年次生6名は、北京の對外経済貿易大学 (UIBE) の集中中国語研修に参加しました。親元を離れ一ヶ月間の、しかも外国での滞在は学生達にとって初めての経験で、最初は中国語力やメディアから受ける中国の情報に不安は隠せない様子でした。

UIBEでは学生寮に滞在し、平日午前中は中国語の授業、週末は市内近郊の見学と日々忙しくも新鮮で充実した日々を送りました。中国語と英語を媒介とした授業では、全神経を集中させ一生懸命勉強しました。

日が経つにつれ、自分達だけで町を散策したり、パンダを見に行ったりと、あらゆることに積極的に取り組む姿勢が見えてきました。またそんな毎日の中で、共に活動した仲間やUIBEのスタッフ、他大学の人々、中国人学生のチューターなどとの多くの出会いもありました。

「百聞は一見にしかず」、「これから中国語、英語をもっと勉強したい」、「また中国に行って更に自分を成長させたい」という感想に、この研修が学生達にとってどれだけ大きな

意味をもつものであったかを知ることができます。

来年は北京でオリンピックも開催されます。皆さんも今しかできない貴重な経験をしてみませんか。



万里の長城にて

### 夏季集中 英語研修

南カリフォルニアの透きとおった青い空、グランドキャニオンのとてつもない雄大さ、ラスベガスやハリウッドの華やかさに圧倒された夏休み。

英語集中研修はカリフォルニア大学リバーサイド校(UCR)にて、6名が参加して8月に約1ヶ月間行いました。

授業は月曜日から金曜日まで、みっち

り英語を勉強します。週末は多彩なオプション・トリップが準備されており、まさにアメリカを満喫することができます。

彼らの一番の思い出になったのはホームステイでしょう。はじめは慣れないアメリカ家庭での生活に戸惑いもあったようですが、帰国の日、ホストファミリーと抱き合い別れを惜む姿が印象的でうらやましくもありました。

アメリカに新しい家族ができた彼らは、再び家族のもとを訪れるでしょう。そのとき彼らは笑って“Welcome home”と迎えられるはずです。

皆さん、来年の夏休みはアメリカで輝いてみませんか？



グランドキャニオンにて

留学生センター長 大久保 勲  
国際交流事業運営委員長 赤崎 健司

## 3年次生就職ガイダンス佳境に入り進行中

今年5月からスタートした3年次生に対する就職ガイダンスは、下記に示すよう、現在佳境に入っています。昨年に比較して、今年は盛りだくさんの就職ガイダンスが計画、実行されています。

### ー3年次生就職に向けてのガイダンスー

○第1回～第8回就職ガイダンス（就職活動に向けて・一般常識テスト・一般常識フォローアップ講座・SPI適正検査・SPIフォローアップ講座・企業の採用活動の現状・就職活動の手順と内容・就職対策と準備・卒業生及び4年次生による就職活動体験発表等）5月～12月

### ○第1回就職に関する意識開発セミナー

10月23日「若手社員との交流会」

### 第2回就職に関する意識開発セミナー

12月6日「採用担当者との交流会」（広島県商工労働部主催：厚生労働省所管）

### ○文章の書き方・新聞の読み方講座

（中国新聞社）

11月30日「就職戦線に生かす文章の書き方」

12月11日「就職戦線を勝ち抜く新聞の読み方」

### ○大学におけるミニ企業説明会

（広島県商工労働部主催：経済産業省所管）

11月～12月



卒業生及び4年次生による就職体験発表

### ○合同企業説明会

2月19日（学校法人福山大学主催：ニューキャッスルホテル）

3月10日・11日（福山大学主催：福山大学学生会館）

就職委員長 廣瀬 順造

## 資格取得をめざして

チャレンジ  
チャレンジ

各学部学科では、教員免許状の取得の他、専門の内容に関連の深い資格のためのカリキュラムを組むとともに、指定の資格試験合格者には関連科目の単位を認定する制度を設けている。（大学案内・要覧・学生便覧を参照）その他、補習や課外講座にも力を入れている。

大学全体としては資格取得総合センターを設置し、資格を取るためのガイダンスを企画、立案、情報収集もしている。その中で、大学が受験に便宜を図っているものもある。英語検定、簿記検定などの受験手続きは教務課窓口で行い、漢字検定、中国語検定、TOEICはその上で大学内に受験会場を設けている。

4年間の在学中に資格を手に入れ、キャリアアップをめざしてほしい。

学務部 教務課

## 公務員講座はじまる

～チャンス到来～

「団塊の世代」が退職期を迎えて、公務員の採用も増えている。今まさにチャンス到来というところである。

講座は基礎講座、本講座、直前対策講座からなる。本来は6月から9月にかけて基礎講座を開講するところが今年は麻しん（はしか）のために9月中旬からの開講となり、10月から本講座がスタートした。現在は一般知能コースを開講中である。

また、受験のこと、勉強の仕方など、個別ガイダンスを行い、公務員としての心構えについての指導も行っている。特別クラス編成の講座も始まった。受講者の奮闘を祈ります。

学務部 教務課

## 薬学部卒後教育研修会 高度医療社会での薬剤師の役割を求めて

第28回福山大学薬学部卒後教育研修会（本研修会）を11月17日（土）に本学キャンパス1号館1階大講義室で開催しました。本研修会は6月に開催予定でしたが、麻疹による大学閉鎖のため延期となっていました。秋の行楽シーズンの土曜の午後にも拘わらず約170名の参加がありました。

本研修会開催にあたり、ご後援頂いております福山大学薬友会に深く感謝致します。

### 1. 臨床に役立つ緩和ケアの知識について



福山市民病院  
緩和ケア科 科長  
古口 契児 先生

緩和ケアはがん疼痛に対するだけでなく治療に反応しなくなった患者さんへの精神的、社会的苦痛なども含めた「全人的な苦痛」に対してのものであるというお話から始まり、臨床現場での具体的な取り組みについて、ご解説いただきました。緩和ケアにおけるモルヒネや他の鎮痛薬などによる薬物療法の実際についてもわかりやすくご講述いただきました。

特に、緩和ケア医と薬剤師が同行して施行している院内のオピオイド回診や医師と薬剤師の有志により設立された「がん疼痛・症状緩和に関する多施設共同臨床研究会」についてもご紹介いただき、薬剤師が医療チームの一員として、どのように緩和ケアに取り組んでいくべきかということについても具体的にご教授いただきました。

### 2. 薬物アレルギーを極める最近の知見を踏まえて



本学 薬学部  
宇野 勝次 教授

薬剤有害反応は避けて通れない問題であり、その有害反応は「中毒性副作用」と「アレルギー性副作用（薬物アレルギー）」に大別される。宇野教授は、新潟県の病院から本年4月に本学に赴任され、つい最近まで臨床現場でかかわっておられた薬物アレルギーに関する深い見識をご披露いただきました。忙しい業務の中、データ収集によるアレルギーと薬物の

因果関係を検討したり、新しい視点での薬物アレルギーの検査を開発して臨床応用されたお話など大変興味深い内容でした。特に、アレルギー起因薬の約4割が抗菌薬、約3割が中枢神経用薬であり両薬剤群で3分の2以上を占めるという知見は印象に残りました。薬剤師が薬の安全管理者として果たすべき役割について具体的にご教授いただきました。

薬学部卒後教育委員会 副委員長 片山 博和



## 研究余滴 「推敲」

現在、研究者の道を歩んでいる私ではあるが、不思議に思う時がある。

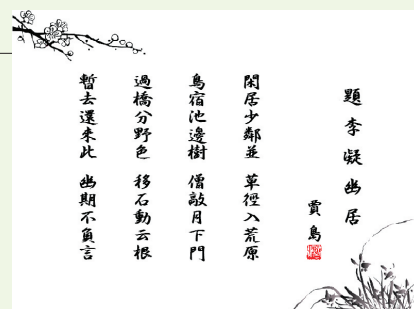
私の両親はともに教師であった。仕事に忙しく、家に帰ってからは私の質問に答える元気も余裕もなくなっていた。そして私はというと、一人で一生懸命に勉強し、良い成績を取ったとしても、「先生の子供だから成績優秀は当たり前。」「先生といつも一緒だからすぐに教えてもらえていいね。」と言われる度に、両親が教師でなかったらどんなに良かったことかと思っていた。自分を無にし、実の子を困らせる教師という職のどこが良いのだろうか。教師にだけは絶対になりたくないと毎回思ったものだ。

しかしその思いを変えてくれたのは、日本留学で出会った恩師である。大学学部時代、「この先生は厳しそうだし、自分にとって良いプレッシャーになるのではないか。」という安易な気持ちでゼミの門を叩き、先生の論文のパソコン入力などのお手伝いをするまでに至った。そして、どのような文書であっても十数回にわたり訂正を行われる先生の研究姿勢を目の当たりにし、また、学生である私にも意見を求められる姿に、初めは戸惑いと驚きでいっぱいであ

った。当時の私からしてみれば完璧のように思われる文書を、なぜ繰り返し繰り返し訂正されるのか。なぜ会計学界の泰斗であられる先生が未熟な私に問かけられるのか。そのような中、「推敲」という言葉にまつわる故事が脳裏をよぎる。

中国唐代の有名な詩人・僧侶である賈島は、驢馬に乗り、旅をしている途中で、ある名句がひらめいた。「鳥宿池辺樹、僧推月下門。」（鳥は宿る池辺の樹、僧は推す月下の門。）しかし賈島はふと考える。静まりかえり、月明かりだけがあたりを照らす夜に、友人宅を訪れる時、門を「推(おす)」とした方が良いのか、それとも「敲(たたく)」とした方が良いのか。彼は手でその動作を幾度となく繰り返し、どちらの方が適切なのかを考えあぐねていた。そのような折、偶然、高官である韓愈の行列にぶつかってしまう。当時、高官に無礼を働くと、重罪は免れない。しかし幸いにもその韓愈も有名な詩人であり、理由を聞いた韓愈は非礼を咎めるどころか、賈島に助言をしたのである。そして身分の差も忘れ、馬を並べて詩作について語り合ったという。

まさに勉強はこのようなものなので

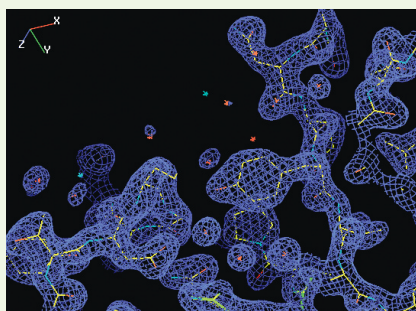


はないだろうか。老若男女、人種、民族を超え、対等に語り合い、お互いに切磋琢磨し、より高度なものに研鑽していく。この過程は辛く、厳しく、逃げ出したい時も多々ある。大半がそうなのかもしれない。しかし、その中で得られる喜びは何物にも代えがたい。そして今だからこそ、なぜ両親が大変な職業であるにもかかわらず、教師の道を選んだのかがよくわかる。

私はまだまだ研究者として一步を踏み出したばかりである。賈島による別の詩にもあるように「十年磨一劍」（十年一劍を磨く）、時間がかかろうとも一步一步着実に足を踏み出していきたい。後ろを振り返った時、太い道が描かれているように。

経済学部 講師 許 霽

## 研究余滴 「宇宙、およびタンパク質の構造と機能を解く鍵」



ブレアデス星団ではなく、タンパク質分子の電子密度図

先の牟田学長による講話を楽しく、また懐かしく拝聴させて頂いた。「懐かしく」という部分は少々説明が必要なので、時間軸を少し遡ることにする。

まだ十代だったある夜、何気なくテレビを見ていたらBBC製作の「宇宙を解く鍵」という科学番組が放映されていた。断片的な記憶をたどると、自らの口で話すホーキングや、ファインマン、ディラックらが出演し、学長講話にもあったCERNやFermilab、スタンフォードのSLACなどが紹介されていた。当時は（そして今も）ほとんど内容は理解できなかったが、素粒子研究から

宇宙の謎を解き明かそうという壮大なスケールに強い衝撃を受けた。

高校時代は物理が好きだった。大学進学時に物理学に進まなかったのは、「物理では教員ぐらいしか就職の見込みがない」という先生の助言や、実家がもとと造り酒屋で、父親が醸造・発酵学を専攻していたことに加え、物理学で何かができるほど頭がよいとは思えなかったことが大きい。そのころは、ライフサイエンスやバイオが現在のよう

に大きく発展するとは夢にも思わなかった。大学院では素粒子ではなくタンパク質という微粒子について研究した。生物材料から酵素を精製し、その性質や構造・機能を調べるというwetな世界である。ただ共同研究を通じて多くの理論系、数物系の方と交流できたのはよかった。「実際にタンパク質を見たことがない」とおっしゃる理論タンパク質研究者もおられた（水晶体自体がクリスタリンというタンパク質）。若手の会で宇宙論の佐藤文隆先生に講師をお願いしたところ、なかなか要旨を

書いて頂けないので押しかけて行った。「何枚書けばいいの？」と訊かれ「A4で3,4枚ほど。」と答えると、やおら筆を取り出し、1枚目に「宇宙」、2枚目に「人間」、3枚目に「素粒子」と見事に墨書された。要旨集にはそのまま載せた。

アメリカでは、タンパク質のX線結晶構造解析を行った。単結晶が入った液体素素タンクを抱えて、Houstonから約20時間運転してChicago近郊、Fermilabにほど近いAPS(放射光施設)に通った。ここは直径2kmのFermilabに比べると、貯蔵リングの一周が約1km強という“小型”の施設である。

こうして振り返ると高校の先生の予言通り、これだけはないと思っていた教員になり、現代物理学の恩恵に浴し、素粒子研究者を学長に戴くこととなった。全く別の世界に進んだはずが、十代のあの時点を中心に、何の謎も解けぬままだ衛星のように周回している気がする。

生命工学部 准教授 岩本 博行

## 第2回広島平和記念公園 清掃活動プロジェクト



昨年の5月27日(土)の第1回に引き続いて行われた第2回目の行事である。「広島平和記念公園清掃活動プロジェクト」は、広島地域留学生会主催、広島地域留学生交流推進会議、広島地域学生団体育成支援協議会の後援によるもので、平成19年10月20日(土)に実施された。

その計画案には「…核兵器だけではなく、あらゆる形の暴力や戦争に反対します。このボランティア活動を通じて、在日の留学生からの平和への祈りを伝えると同時に、留学生の団結力の強化も図りたいと考えています。また、日本の若者と交流しながら、祈る平和から作る平和に向けて努力することが私たちの世代の責務であると思っています。…」とその趣旨が述べられている。

福山大学関係の参加者は、留学生19名、引率教員2名(趙、三浦)、奉仕作業を通して交流を楽しんだ。全体参加者は、県内在住留学生54名、日本人学生31名、大学関係者7名、計92名であった。往復には福山大学の大型のスクールバスを運行し、午前8時に福山駅北口を出発、松永駅福山大学行

ターミナル経由、10時に広島平和記念資料館集合の計画に従った。10時10分、セレモニー及び活動内容説明。11時、平和学習(広島平和記念資料館見学・被爆者講話)。12時、広島平和記念公園清掃活動開始。14時、交流会(広島工業大学広島校舎・自由参加で69名)2時間の予定で大学別に活動の紹介などがあり、ビンゴゲームも行われた。16時、閉会式。終了後全員で片づけ。18時頃福山駅北口に無事帰着した。

晴天に恵まれ、他団体による清掃活動が行われていると思われる平和公園を中心に、趣旨で述べられている平和学習や平和への努力はこのプロジェクトではどのようにすればよいかが今後の課題として残るかも知れない。

国際交流委員会 三浦 省五

## 福山大学・福山暁の星 女子中学高等学校連携 Science Lab

～遺伝子から宇宙開発まで～

福山暁の星女子中学高等学校と連携したScienceLab～遺伝子から宇宙開発まで～が、本学理系学部の教員の協力により、表に示したスケジュールで順調に展開されている。本支援事業の目的は、女子中学高校生を対象に理科教育を支援し、理系領域への女性進出を図ることにある。ScienceLabの実施計画は、本学から60に及ぶテーマが提案され、福山暁の星女子の理科担当教諭が学習状況にあった内容を選択して策定された。昨今、理科離れが問題となっている背景には、実験を通して学ぶ機会が少ないことが挙げられる。そこで、ScienceLabは、理科の楽しさ面白さ、そして神秘さを実験により体験することを趣旨としている。前半第

4回までの参加人数は中学生79名、高校生70名であり、毎回、暁の星からは高い評価を得ている。また、第4回は、講演会と共に、福山市内の中学高等学校6年一貫校の理科担当教諭による見学会を開催した。今後は本学教員からの幅広い協力の下に、備後地域の理科教育を広く支援していきたいと考えている。



### ScienceLab実施日程

	中学生	高校生
第1回 8月5日	福山大学施設見学(グリーンサイエンス研究センター、図書館など) レーザーと光の不思議	化学実験「発色する化学」
第2回 8月26日	薬理学への誘い なぜ解熱剤なの?なぜくすりって効くの?～	小さな生き物を観察する
第3回 10月7日	薬剤師の仕事体験してみよう ショウガやクズから漢方薬「葛根湯」をつくる	建築の歴史・文化 解熱鎮痛剤エテンザミドの合成と確認
第4回 10月27日	ScienceLabCafeMeeting(理系分野で働く女性の講演及び交流会) 公開実験・研究の見学(三蔵祭見学)	
第5回 11月10日	地震などの大きな力に耐える建物の仕組み	トマトから活性酸素消去物質であるリコピンを取り出してみよう!!
第6回 11月24日	福山と地震	魚肉ソーセージ中の食品添加物(亜硝酸ナトリウム)を見てみよう
第7回 2月9日	エネルギー資源と省エネ	DNA鑑定実習
第8回 2月23日	日本と世界の宇宙開発	ワクチンと免疫～抗体があなたを守る～

薬学部 准教授 杉原 成美

## 高校生と大学生の英語・日本語スピーチコンテスト

平成19年10月27日(土)午後1時から1号館の大講義室で第5回「広島県東部高校生英語スピーチコンテスト」が開催された。これは平成15年以来の行事で、近年の国際交流の中で、国際的な視野の育成、英語力の促進の一助となることを期待して開催するものである。今回は、福山暁の星女子、県立福山葦陽、県立尾道商、市立福山、如水館、県立総合技術、県立大門、県立忠海、県立福山明王台高等学校の9校から19名が参加して、「友情」「青春」「思い出」などの中から1点を選び題名をつけて5分以内のスピーチをするもの。その結果、大賞の瀧川京子さん(暁の星女子)には、賞状、

トロフィー、副賞としてカリフォルニア大学リバーサイド校から4週間の短期留学奨学金が授与され、さらに福山松永ライオンズクラブから渡航費用の一部が援助された。準大賞は、松村麗奈(尾道商)・岩石歩(如水館)、優秀賞は、河原弥生(如水館)・重吉美咲(忠海)・妹尾実咲(暁の星女子)、審査員特別賞は、今村恵理子(暁の星女子)・米村麻実子(総合技術)のみなさんに授与された。コンテスト開催にあたり、福山市教育委員会、ふくやま国際交流協会、福山大学留学生教育振興協会の後援、福山商工会議所、福山松永ライオンズクラブ、松永ロータリークラブからの協賛を得た。ご協

力に対しお礼を申し上げたい。

福山大学三蔵祭のもう一つの主要イベントである第14回スピーチコンテストは、10月28日(日)午後1時から、1号館大講義室で開催された。第1部の外国人留学生による日本語スピーチの部では、10名の出場者の中から関天夫さんが最優秀賞を受賞した。優秀賞は、徐海萍、奨励賞は姚亜君、審査員特別賞は、鳥都格奇のみなさん。第2部の英語スピーチの部では11名の出場者があり、最優秀賞は小川哲矢、優秀賞は牛波、奨励賞は宮下恵里奈、審査員特別賞は寺岡麻耶さんらで、表彰状ならびに記念のトロフィーが贈られた。

国際交流委員会 三浦 省五



## メディア情報文化学科開設記念

### 第2回 高校生CMコンテスト 全52作品から受賞作品が決定！

人間文化学部メディア情報文化学科では、昨年度に引き続き、「高校生CMコンテスト」を開催した。このコンテストは、映像メディアに対する高校生の豊かな才能を開花させ、その才能を支援することを目的としている。全国の高校生を対象として、「あなたの『まち』を全国にアピールしよう！」というテーマで募集したところ、「映像作品の部」に38作品、絵コンテに企画をまとめる「企画コンテの部」に14作品と、昨年度を大きく上回る応募をいただいた。

10月下旬、(株)電通のシニア・クリエイティブ・ディレクター・川野康之氏と、(株)サン・アドのチーフ・プロデューサーである藤森益弘先生（本



学客員教授）を審査員に迎えて、厳正な審査をおこなった。白熱した議論の末、「映像作品の部」のグランプリには、広島県立尾道商業高等学校の越智みはるさんによる「観光して下さい。」となりました。この映像は、尾道の風景を撮影した静止画を背景に、“猫に誘

われて／入った道には／歴史を感じる景色と／現代を感じる景色が共存していた。”というフレーズが、ピアノの穏やかなメロディとともに心に強く刻まれる作品。なお、「企画コンテの部」のグランプリは、大阪市立扇町高等学校の奥田弘之さんによる「商都大阪プロジェクト2007年」だった。

そして10月27日、三蔵祭開催中の福山大学で表彰をおこなった。藤森客員教授の講評と川野氏のビデオメッセージを真剣に聴き入っていた受賞者のみなざしが印象的だった。

ウェブサイトでは「映像作品の部」の受賞作品を公開しているので、是非ご覧いただきたい。

人間文化学部 講師 飯田 豊

<http://www.fuhc.fukuyama-u.ac.jp/human/media/cm2007/>

▶▶ 移動

## キッズサッカーフェスティバル開催

10月28日（日）すばらしい青空のもと、「第4回福山大学キッズサッカーフェスティバル」を開催しました。近隣の150人近くの子供たちが集い、サッカー場周辺は一日中笑顔の満ちあふれた素晴らしい空間になりました。

このイベントは最新の人工芝グラウンドの完成を記念し、地域の子供たちにも緑の芝生の上を思いっきり走り回ってほしいという思いを込め三蔵祭のイベントの一環として開催しています。

当日は、対象とした幼稚園児から小学校3年生までを年齢別に分け、それぞれサッカー部員と一緒にアイスブレイクから練習、試合と展開していきました。初めて会う子供同士で仲良くできるか心配でしたがそこはやはり子供たち。あっという間に新しい友達をつくり、すぐに仲良く走り回っていました。さらには小学校低学年とは思えないほどのテクニックを持った子供もあり、

あらためてキッズ年代の指導の大切さを認識しました。

サッカー部員たちも普段の選手からコーチへ立場を変え、戸惑いながらも積極的に指導に励みました。子供たちの笑顔に支えられ、改めてサッカーの楽しさ、仲間とふれあえる喜びを感じたことでしょう。現在、日本サッカー協会ではキッズ年代のサッカーの普及に力を入れています。福山大学サッカー部としても地域貢献をふまえ、定期的なサッカースクールの開設を実現したいと考えています。

最後になりましたが、このイベントを開催するにあたり協力していただいた皆様にお礼を申し上げるとともに、参加してくれた子供たち保護者の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ぜひ来年も参加してください。

経済学部 講師 吉田 卓史



「笑顔いっぱいの子供たち」





# 施設のご案内

## 保健管理室から 春期健康診断の報告

平成19年度の春期健康診断は、1年次生・2年次生・4年次生・大学院2年生を対象に4月4日（火）・9日（月）から12日（木）・15日（月）の6日間、例年よりも1日延長して実施しました。学生の受診率はほぼ昨年どおり、全体として80%弱の学生が受診しました。また、尿検査の所見があった人は、昨年よりも減少し10%弱となり、再検査の結果では所見がある人は随分減少しています。しかし、生活面での疲労の蓄積が影響を及ぼしていることが懸念されます。特に1年次生は全学部で受診率が低下しています。自分の健康は自分で守ることしかできません。健康診断を必ず受けて、自分の健康管理に関心をもってもらえることを期待しています。

また、今年度も有機溶剤・特定化学物質

を実験で取り扱う学生の特別検診も実施しました。昨年度よりも大幅に増加して163名の人が受診し、結果については本人宛に連絡しています。

教職員の健康診断も5月22日（火）から24日（木）に実施しました。

### 【新看護師 着任】

9月上旬の保健管理室看護師の退職に伴い、開室時間が限定されていましたが、11月から新しく金田看護師が着任し、通常に復しました。金田看護師は救命救急センター8年、慢性期病棟8年、吉備国際大学保健科学部看護学科の助手3年という経歴で、幅広く看護を体験していますので、学生・教職員の健康相談にも対応していけるものと思っています。

保健管理室には学生・教職員自身による

健康管理の基盤となる、血圧計・体温計・体脂肪計・身長計・体重計を設置しています。十分に活用してください。

### 医師による健康相談日

毎月2回相談日を開設しています

日時：掲示で案内

場所：大学会館 保健管理室

担当：末丸紘三医師

### カウンセラーによる健康相談日

毎週2回相談日を開設しています

日時：火曜日 10:00～13:00

金曜日 13:00～17:00

場所：大学会館 保健管理室

担当：藤居尚子カウンセラー

※いずれも予約が必要です。  
保健管理室にご相談ください。

保健管理室長 田中 正孝

## INFORMATION

### 2007 年公開講座終わる

平成19年度の福山大学公開講座は、「安心・安全な暮らし(2)」と題して、次の通り実施されました。

第1話 「安心できるライフプラン・社会保障について」

経済学部 小林 正和 講師

第2話 「メディア社会の安全と未来—マスコミ報道からケイタイ利用まで—」

人間文化学部 飯田 豊 講師

第3話 「安全・安心な住まい」

工学部 中山 昭夫 教授

第4話 「食品の安全性について」

生命工学部 倉掛 昌裕 准教授

第5話 「薬の効き目はヒトによって違う?—代謝の個人差について—」

薬学部 五郎丸 毅 教授

第6話 「情報革命と安全な暮らし」

工学部 小林 富士男 教授

なお、閉講式においては、6回中5回以上の出席者に修了証書を授与しました。

それぞれの会場の申込者数、受講者数、修了者数は、次の通りです。

	申込者	受講者	修了者
福 山	203	188	106
三 原	74	72	51

また、申込者の年齢は、60歳以上の方が大半を占め、ベテラン主婦や退職者の方が多かったようです。

受講者へのアンケートによれば、両会場とも「よくわかった」「わかった」を合わせて70%を占め、概ね好評であったと言えます。来年度に開講を希望する分野としては、両会場とも健康と薬、政治と経済が多く、その他環境と生活、資源とエネルギーがこれにつぎ、福祉・生涯教育、文化芸術、国際関係などへの希望も少なからずあり、その内容は多様です。来年度もこれらの結果を講座の内容に反映させていきたいと思っています。

公開講座委員長 井上 矩之

### パソコン体験講座始まる

公開講座に引き続き、「年賀状をつくろう」と題して、パソコンの体験講座が、本学1号館第1情報科学実習室において開催されました。

第1回 11月17日(土)

「パソコンを操作しよう」

工学部 三谷 康夫 教授

第2回 11月24日(土)

「イメージをさがそう」

工学部 千葉 利晃 教授

第3回 12月1日(土)

「宛名書きをしよう」

経済学部 石丸 敬二 講師

第4回 12月8日(土)

「年賀状を完成しよう」

経済学部 筒本 和広 准教授

本講座は、誰もが楽しみ(苦しみ?)にしている年賀状づくりを通して、パソコンの基本操作、インターネットからのイメージ画像の入手、その画像を加工した文書の作成、宛名書き、印刷などの技術を習得していただくものです。

公開講座委員長 井上 矩之

## 図書館だより チャレンジ精神

皆さんは現在の図書館をどう感じているのでしょうか。学生の関心の変化に伴い、図書館のあり方も変化しています。そこで、本学図書館の、最近の変化についてお知らせします。まず、4月に入り、図書館の入り口に癒し効果のある観葉植物を配置、「図書館利用ガイド」を配布、貸し出し図書に挟み込む貸し出し期間記載用の「楽(しおり)」の作成、「開館カレンダー」の作成、「貸し出し用傘」の設置(本年7月サービス開始～10月末まで利用件数27件)、「図書購入希望ボックス」の設置(本年4月～10月末までに43冊購入)など、ここ数年わずかずつですが、利用者へのサービス改革に努めています。

図書館は、みなさんの研究活動のお役に立てるよう常にスタンバイしています。研究の仕方がわからない、関連する資料にどういうものがあるか、それがどこにあるか、手にするにはどういう方法があるかなど、何でも構いません。疑問をぶつけてみて下さい。

そのような通常業務の他、各種チャレンジをしていこうと思います。「利用者の声」ボックスやメールにてご意見をお聞かせください。



附属図書館 事務長心得 桑田 成年



## 学内人事

### 【教員】

#### ◎辞職

学長 宮地 尚  
(10月18日付)  
工学部 助手 坪岡 淳  
(9月10日付)  
経済学部 准教授 園 弘子  
(9月30日付)  
生命工学部 講師 山田 隆志  
(10月8日付)

#### ◎採用 学長

牟田 泰三  
(10月19日付)  
工学部 助手 山下 稔  
(9月16日付)  
薬学部 教授 大濱 修  
(11月5日付)

#### ◎客員教授

原田 伸之 (経済学部)  
水越 敏行 (人間文化学部)  
池田 達哉 (生命工学部)  
西田 清徳 (生命工学部)  
瀧上 倫子 (生命工学部)  
(以上9月16日付)

### 【職員】

#### ◎辞職

保健管理室技術職員(看護師)  
石井 邦恵  
(9月15日付)

#### ◎任期満了

国際交流課参事(事務嘱託員)  
上 泰二  
(7月31日付)

#### ◎配置換・昇任

文書課長 江里口武和  
(庶務課→文書課)  
(10月1日付)

#### ◎兼務

薬学部附属薬局設置準備室主幹 後藤 哲男  
孔子学院設置準備室主幹 江里口武和  
(以上10月1日付)

#### ◎免兼務

文書課長 松岡 哲衛  
(10月1日付)

#### ◎採用

保健管理室技術職員(看護師)  
金田 静  
(11月1日付)

## 栄 誉

牟田 泰三学長が第64回中国文化賞を受賞。(11月14日付)

大川 秀郎教授(生命工学部応用生物科学科)が第4回JICA理事長表彰を受賞。(10月3日付)

秘書室

## 教育懇談会終わる

### 12会場で1,163名の出席

夏季休業期間中、開催している教育懇談会。今年も8月25日(土)～9月2日(日)の中8日間、名古屋～福岡の12の会場で、行われました。開学以来、継続しています。昨年も実施しましたアンケートや今年出欠の回答をいただいた時のアンケートを参考に、改善を加え実施しました。土日開催地の増、学科教員、担任との懇談。とりわけ地方会場へ当該学科の教員がいない場合は「担任のコメント」での対応等。

その結果、各会場ごとの保証人の出席者数は、ご両親で出席された場合も1名と数えまして、次の通りでした。

○8/25(土)福岡:98名,松山:40名  
○8/26(日)岡山:88名,高松:42名  
○8/27(月)大阪:36名  
○8/29(水)姫路:31名,小郡:45名  
○8/30(木)松江:59名,名古屋:23名  
○8/31(金)広島:77名  
○9/1(土)本学:254名  
○9/2(日)本学:370名で  
出席総数は1,163名。

昨年に比べて土日開催地は出席率も増加しています。また「担任コメント」は大変好評でした。

また逆に土日開催地の増加、懇談会当日のスケジュール、待ち時間の工夫、欠席者

への資料の送付などの要望もありました。近年は平日でもご両親でお見えになる方が増えています。教育に対する関心と大学にかけける期待の現れだと思います。出席された保証人の皆様からは『懇談会に来てよかった』『続けてほしい』『また『大学のきめ細かい対応を評価している』とも言っていたきました。この声をありがたく、また真摯に受け止め、努力していきたいと思ひます。更に一人でも多くの保証人の方に出席していただけるよう、また保証人の皆様から辛辣な声をお聞かせいただけるよう努力していきたいと思ひます。

学務部 教務課

## 学友会 短 信

### 【陸上競技部】

○9月23日 第39回全日本大学駅伝対校選手権大会 中国四国地区最終選考会 第3位  
○10月8日 第19回出雲全日本大学選抜駅伝競走 出場 正木 彬(工学研究科1年) 石原 泰樹(経済4年) 東 克幸(経済3年)  
○10月19日～21日 第30回中国四国学生陸上競技選手権大会 5000m 優勝 正木 彬(工学研究科1年) 第3位 石原 泰樹(経済4年) 10000m 第3位 石原泰樹(経済4年)  
○9月20日・10月26日 東村小学校へ講師として派遣  
○12月2日 中国四国学生駅伝競走大会 準優勝

### 【硬式野球部】

○6月22日～24日 第21回中国地区大学野球新人戦 出場  
○9月2日～10月14日 平成19年度中国六大学野球秋季リーグ戦 第4位

### 【サッカー部】

○6月23日～8月26日 2007年度全広島サッカー選手権決勝大会 準優勝  
○9月9日～11月11日 2007年度中国大学サッカーリーグ(1部) 第6位

### 【剣道部】

○11月3日 福山市長杯剣道・居合道選手権大会 優勝  
○11月4日 第1回広島県学生剣道選手権大会 第3位

### 【柔道部】

○8月24日～26日 平成19年度中国四国学生柔道体重別団体優勝大会 出場

### 【硬式庭球部】

○9月23日～28日 平成19年度全日本大学対校テニス王座決定試合中国四国地区大会 出場

### 【ソフトテニス部】

○9月23日～24日 平成19年度広島県学生ソフトテニス秋季大学対抗戦 Bチーム ベスト8

○10月28日 平成19年度広島県学生ソフトテニス新人戦 ベスト8 水津 整(経済1年)・瀬良 友秀(人文1年)

### 【男子バレーボール部】

○第7回広島県大学バレーボール選手権大会 出場

### 【軟式野球部】

○10月22日～26日 平成19年度西日本地区学生軟式野球秋季1部リーグ戦 第4位

### 【卓球部】

○10月26日～27日 第29回中国学生卓球連盟会長杯争奪卓球大会 出場

### 【合気道部】

○10月20日 第35回中国四国学生合気道演武大会出場

### 【ボート部】

○10月19日 第51回中国学生ボート選手権大会 準優勝 北条 正人(海洋1年)

### 【空手道部】

○10月28日 第34回広島県大学空手道選手権大会 出場

### 【弓道部】

○10月4日～7日 第52回中四国学生弓道選手権大会 出場

### 【吹奏楽部】

○11月18日 第29回定期演奏会(大会会館)

### 【ボウリング部】

○8月21日～23日 第40回西日本学生ボウリング選手権大会 優勝  
○12月6日～8日 第45回全日本大学ボウリング選手権大会 第4位

### 【ダンス部】

○第3回JCDA関西チアダンス大会 第3位

### 【三蔵太鼓を打つ会】

○9月19日～ 東村小学校へ講師として派遣

○11月16日 びんご産業市場オープニングセレモニー 演奏

### 【ユースホステル部】

○8月19日 サマーキャンプ(45名参加)

### 【剣道同好会】

○10月18日～22日 第41回全国学生剣道優勝大会 第3位 大本 雄介(情報2年)

### 【ビリヤード同好会】

○平成19年度中国地区学生ビリヤード連合会定例会個人戦 ベスト8 平木 雄二(機械4年) 藤岡 要彰(薬学1年)

### 【ロボット研究会】

○9月15日 モノづくり教室(土堂小学校)

### 【学友会執行部】

○11月26日 秋の献血キャンペーン

学務部 学生課

## 国際交流瓦版

- ◎呉静怡さん(人間文化4年・中国)ら13名が'07学習奨励費受給者に決定(6月27日)
- ◎孫瑀さん(国際経済2年・中国)ら7名が'07年度HIC奨学金受給者に採用決定(6月28日)
- ◎坊康平さん(応用生物2年)ら4名の日本人学生と馮熙嬌さん(国際経済4年・中国)ら4名の中国人留学生がUCRのIEPに参加(8月1日～9月2日)
- ◎上田宏人さん(経済1年)ら6名が対外経済貿易大学夏期集中中国語研修に参加(8月1日～8月30日)
- ◎熱烈歓迎！交流協定校である北京市海淀実験中学(中国)から教員、学生、保護者が12名訪問、学内施設見学(8月8日)
- ◎Mingchua Tatsaneeさん(人間文化3年・タイ)日タイ修好120周年記念料理交流

- 会に参加(8月25日)
- ◎牛波さん、叶磊さん(いずれも中国・貴州師範大学2年)が短期交換留学を修了、帰国の途に(8月末日)
- ◎鄒莉さん(人間文化1年・中国)が広島地域留学生進学説明会で福山大学のガイド役を務めた(9月4日)
- ◎張曉崢さん(建築2年・中国)が秋入学(編入学)第2号として来日(9月13日)
- ◎関天夫さん、徐一敏さん、莫欣さん(中国・対外経済貿易大学3年)が交換留学生として来日(9月14日)
- ◎大竹薫さん(国際経済2年)がJASSO短期留学推進制度奨学生に決定、本学第1号としてUCRに短期留学期中(2007年9月～2008年3月)
- ◎斉超蘭さん(人間文化1年・中国)が府中

- 市教委主催「インターナショナル☆ッキング」で福建省の家庭料理の講師(10月20日)
- ◎熱烈歓迎！交流協定校である上海師範大学(中国)から李学長、夏教授が訪問、学内施設見学(10月22日)
- ◎経済産業省・文部科学省アジア人財資金構想プロジェクト・中国地域における高度実践留学生育成事業へ実践留学生として秦永恒さん(機械3年・中国)採用決定！(10月24日)
- ◎第33回大学祭へ福山大学留学生会(会長 趙文岐さん、副会長 王毅さん(いずれも国際経済3年・中国)、姚遠さん(国際経済4年・中国)らを中心に)模擬店を出店、羊肉串焼きを販売(10月27日～28日)(学務部 国際交流課)

## 平成20年度 入学試験はじまる

平成20年度(2008)入学試験の指定校入試は、福山大学・福山平成大学とも、10月14日に実施し、10月17日に合格者を発表しました。

AO入試は、福山大学では第Ⅰ期を10月13日に実施し、10月17日に合格者を発表し、第Ⅱ期を11月17日に実施し、11月21日に合格者を発表しました。第Ⅲ期は12月15日、第Ⅳ期は1月17日、第Ⅴ期は2月16日、第Ⅵ期は3月15日に実施します。福山平成大学は、第Ⅰ期を10月13日に実施し、10月17日に合格者を発表しました。第Ⅱ期は12月15日に実施します。

指定校(スポーツ)入試は、福山大学・福山平成大学とも、第1回を8月25日に実施し、8月29日に合格者を発表し、第2回を10月13日に実施し、10月17日に合格者を発表しました。第3回は12月15日、第4回は1月26日に実施します。

推薦入試(A日程)は、福山大学・福山平成大学とも、11月7日・8日の2日間にわたり、大阪、福岡など13会場で実施し、11月14日に合格者を発表しました。

推薦入試(B日程)は、福山大学・福山平成大学とも、平成19年12月12日に行います。合格発表は12月15日です。

前期入試(A日程)は、福山大学・福山平成大学とも、平成20年1月31日～2月3日の4日間で行います。合格発表は、いずれも2月8日です。

前期入試(B日程)は、福山大学・福山平成大学とも、平成20年2月17日に行います。合格発表は2月20日です。

後期入試は、福山大学・福山平成大学とも、3月14日と15日に行います。

また、福山大学・福山平成大学とも、大学入試センター試験利用入学試験を実施します。出願期間は、前期入試が平成20年1月5日～1月29日(消印有効)、後期入試が2月22日から3月10日(消印有効)です。両大学とも大学独自の個別学力試験は課しません。

### 入試広報室から

#### ◆入試説明会

高校進路指導担当者を対象に、福山大学および福山平成大学の入試説明会を6月18日から22日まで、各地の12会場で開催しました。

高校からの参加者は、151校158名でした。

#### ◆大学参観を兼ねた入試説明会

9月21日、福山大学および福山平成大学の大学参観を兼ねた入試説明会を合同開催しました。参加教員の事前希望であった両大学の施設・設備の見学後、福山市内のホテルで両大学の入試説明、質疑応答が行われました。参加者は9府県の38校からの47名でした。

#### ◆進学相談会(業者主催)

業者主催の進学相談会において、本年度は広島など28都市58会場で高校生・保護者・教員、総計623名の進学相談に応じました。

#### ◆福山大学見学会・体験入学会

毎年恒例の見学会を6月30日、7月21日、9月8日、体験入学会を8月4日、8月26日に開催しました。

見学会の参加者は6月30日は高校生35名、保護者8名、計43名、7月21日は高校生97名、保護者43名、計140名、9月8日は高校生75名、保護者25名、計100名でした。

体験入学会の参加者は、8月4日は高校生366名、保護者84名、計450名、8月26日は高校生207名、保護者103名、計310名でした。

福山平成大学では、6月30日、7月21日、9月8日に見学会、8月4日、8月26日に体験入学会を開催しました。見学会の参加者は6月30日は高校生39名、保護者16名、計55名、7月21日は高校生56名、保護者21名、計77名、9月8日は高校生55名、保護者10名、計65名でした。

体験入学会の参加者は、8月4日は高校生189名、保護者50名、計239名、8月26日は高校生122名、保護者32名、計154名でした。

#### ◆高校PTA・教員・生徒の本学訪問

4月下旬から福山大学および福山平成大学への訪問は、高校18校1,947名でした。

### 編集後記

12月初旬、久しぶりに県北の比婆山へ行きました。木々は完全に落葉し冬木立。ふと見ると、小さな枝はもう芽を出して春の準備をしている、思いがけない発見でした。そして我が身は、相変わらず計画のない忙殺の日々に反省しきり、..

発行 福山大学  
編集 福山大学広報委員会  
〒729-0292 広島県福山市学園町1番地三蔵  
TEL (084) 936-2111 FAX (084) 936-2213

<http://www.fukuyama-u.ac.jp>